

☆福岡大学病院診療科一覧☆

診療科名	腫瘍・血液・感染症内科	内分泌・糖尿病内科	消化器内科	腎臓・膠原病内科	循環器内科	呼吸器内科	神経内科	健康管理科	総合診療部	東洋医学診療部	精神神経科	小児科	消化器外科	呼吸・乳腺・小児外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	歯科口腔外科	リハビリテーション科
	形成外科	美容外科	形成外科	美容外科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	皮膚科	
診療日	毎日	毎日	毎日	月・火・水・木・金	毎日	月・水・木・金	毎日	月・火・木・金	毎日	※予約制	※予約制	毎日	毎日	毎日	毎日	月・水・木・土	※予約制 月・木	火・木	※予約制 月・火・金	火・木	毎日※水・土は再診のみ	月・火・水・木・金	火・木・土	月・火・水・木・金	月・水・金	毎日	

【診療受付時間】

◎初診：(月～土) 8時30分～11時00分 ◎再診：(月～土) 8時30分～11時00分  
 ※休診日：日曜・祭日 盆休(8/15)・年末年始(12/29～1/3)

交通のご案内



地下鉄でご来院の方へ

「福大前駅」での下車となります。下車後、徒歩1分です。  
 改札口を出て右側(2番出口)が福岡大学病院方面となります。  
 定員20人乗りの一般用のエレベーターが設置されています。

- ※「天神南駅」からご乗車の場合(所要時間 約16分)
- ※「橋本駅」からご乗車の場合(所要時間 約8分)
- ※「福岡空港」、「博多駅」からの場合、「天神駅」で乗りかえです。  
 天神地下街を通過して七隈線「天神南駅」から乗車となります。

バスでご来院の方へ

「福大病院バス停」での下車となります。

天神から(所要時間 約30分)

天神警固神社三越前から14番、114番のバスにご乗車ください。  
 天神協和ビル前(10)乗り場、あるいは天神福ビル前(12)乗り場からの場合、福大病院経由の40番のバスにご乗車ください。

博多駅から(所要時間 約40分)

博多駅前バス停(A)乗り場から18番あるいは、福岡交通センター1階(4)乗り場で福大病院経由の114番にご乗車ください。

六本松・別府2丁目バス停から(所要時間 約15分)

14番、18番、114番、140番で福大病院経由のバスにご乗車ください。

西新から(所要時間 約30分)

脇山口バス停で、95番の福大病院経由のバスにご乗車ください。

自家用車でご来院の方へ

九州自動車道、福岡都市高速道路を利用する場合

九州自動車道、太宰府ICより福岡都市高速道路を経由し、堤ランプで降り、国道202号線(福岡外環状線道路)に入り2kmほど直進して、福大トンネル出入口手前で右折し福岡大学病院方面に向かい福大病院東口交差点を右折してください。

西九州自動車道を利用する場合

西九州自動車道(福岡前原道路)拾六町インターチェンジで降り、国道202号線(福岡外環状線道路)の青果市場入口交差点を右折する。国道202号線(福岡外環状線道路)を4kmほど直進し、福大トンネル出入口手前で右折する。梅林中学校交差点を左折後300mほど直進し、福大病院南口交差点を左折してください。

国道202号線バイパスを利用する場合

- ※ 天神、六本松方面から来院される方は、国道202号線(A別府橋通り)の中村大学前交差点を左折し3kmほど直進し、七隈四ツ角を過ぎると右側に病院が見えてまいります。
- ※ 福重、原方面から来院される方は、国道202号線(C今宿新道)の荒江四ツ角を過ぎ、国道202号線(別府橋通り)の中村大学前交差点を右折し3kmほど直進し、七隈四ツ角を過ぎると右側に病院が見えてまいります。

国道263号線を利用する場合

- ※ 西新、荒江方面から来院される方は、国道263号線(D早良街道)の野芥四ツ角を左折し、県道49号線を1.2kmほど直進し福岡大学病院方面に向かい福大病院南口交差点を左折してください。
- ※ 三ツ瀬、曲淵方面から来院される方は、国道263号線(早良街道)の野芥四ツ角を右折し、県道49号線を1.2kmほど直進し福岡大学病院方面に向かい福大病院南口交差点を左折してください。

**福岡大学病院** 〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45-1  
 TEL (092)801-1011(代)

発行：医療情報部 URL：http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/

福大病院ニュース



禁煙宣言

— 病院敷地内全面禁煙のお知らせ —

福岡大学病院は、患者さんをはじめ病院を利用される皆様の健康のために、煙のないクリーンな病院作りに積極的に取り組んでおります。

については、平成19年1月1日から病院敷地内では全面禁煙といたしておりますので、ご協力とご理解をお願い申し上げます。

福岡大学病院の基本理念  
 あたたかい医療



- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

■ 患者さんの権利について

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。患者さん一人一人が医療の中心となり、以下の権利と責任(患者さんの権利に関するリスボン宣言)があることを福岡大学病院の職員一同は認識します。

1. 患者さんは常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 患者さんは医師や病院あるいは保健サービス施設を自由に選択し変更する権利があります。
3. 患者さんは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて、十分に説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否の決定を下す権利があります。
4. 患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. 医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
6. 患者さんは健康について保健教育を受ける権利があり、自分の健康に対する自己責任があります。



## 未来に残そうスーパードラッグ：創薬ボランティア募集



臨床研究支援センター  
医師 野田 慶太

医学の発達とともに、新薬が次々と開発されていますが、すばらしい効き目を備えた副作用の少ないスーパードラッグの誕生には、多くの患者さんの協力が必要です。以下に新薬のできるまでの行程をご紹介します。

### (新薬ができるまでの行程) (図1)

- 1) 研究室での薬の開発**  
合成または天然に存在する多くの化学物質の中から薬となる候補物質を選びます。
- 2) 動物実験**  
候補物質の有効性と安全性を確認するため動物を用いて試験を行います。
- 3) 治験**  
治験とは、国から医薬品として承認を受けるために行う臨床試験です。薬は、最終的には患者さんに用いるわけですから、動物実験だけでは有効性・安全性は評価できません。そこで、ご本人の同意のもと、有効性と安全性を調べる治験が必要になってきます。

治験の実施にあたっては、治験に参加していただく方々の人権と安全性を守るため、厚生労働省の作成した治験の法律「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」に従って、治験を行います。

### 4) 厚生労働省に承認申請

厚生労働省に申請後、治験のデータ等を検討し、医薬品として承認を受けることになります。

### (臨床研究支援センター)

当院では、被験者(患者)、医師、治験依頼者への治験にかかわるすべての事柄を支援するため、平成13年7月に設置され、現在、治験コーディネーター(CRC)、専任薬剤師、治験事務員、専任医師が配置されています。

CRCとは、治験がスムーズに行えるように支援する者で、当院では看護師資格を持つ、訓練を受けたものが担当しています。

### (治験への参加)

### 福岡大学病院では治験を行っているの？

毎年30-40件の新たな治験が、多くの診療科で行われています(表1,2)。

### 治験に参加する時のいい点・悪い点は？

	いい点	悪い点
作用・副作用	新たな効果が期待される。医師、CRCからくわしい説明あり。	未知の副作用の可能性。 新薬との比較のため普通薬やプラセボ*の群になる場合あり。
参加条件	治験中の安全のため厳密な参加条件を設定	条件がきびしく、病気があっても参加できない事がある。 併用禁止薬があり、それをやめないと、参加できないことがある。

\*プラセボ：有効成分の入っていない、治験薬と外見上見分けがつかない薬

### 治験に参加したいのですが？

- 原則、治験の対象となる病気を診てもらえる、治験実施診療科へ受診(相談)する必要があります。
- 治験実施診療科でどんな治験が行われているかは、以下の方法で確認できます。

- ① 福岡大学病院臨床研究支援センター ホームページ (本年4月設置)
- ② 福岡大学病院臨床研究支援センター事務室への問い合わせ

図1. くすり世の中に出てくるまでの仕組み

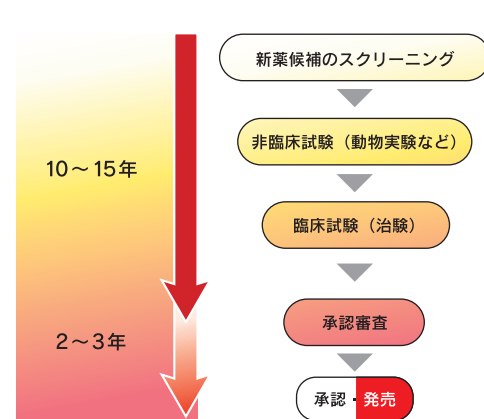


表1 治験実施診療科と治験件数(2008年1月時点)

診療科	治験件数(初期募集数)	消化器外科	2 (5)
血液・腫瘍・感染症内科	8 (28)	整形外科	1 (8)
内分泌・糖尿病内科	5 (29)	心臓血管外科	1 (9)
循環器内科	3 (84)	皮膚科	5 (24)
消化器内科	10 (51)	泌尿器科	1 (2)
腎臓・膠原病内科	3 (16)	産婦人科	3 (30)
呼吸器内科	2 (4)	耳鼻咽喉科	1 (4)
神経内科・健康管理科	15 (213)	麻酔科	6 (28)
精神神経科	5 (22)	放射線科	1 (10)
小児科	3 (11)	周産期センター	1 (1)

表2 当院で現在行われている治験の一部紹介

診療科	対象疾患	特徴
麻酔科	非癌性疼痛(慢性疼痛)	注射・坐剤用鎮痛薬の口腔内貼付
婦人科	腹水をともなう進行性、再発卵巣癌	分子標的癌治療：癌関連の増殖因子の特異的抑制
精神科	小児・強迫性障害 小児・うつ病	成人で既に承認されているフルボキサミンの小児への適用
消化器内科	C型代償性肝硬変	インターフェロンとリバビリン(抗ウイルス薬)の併用
消化器内科	潰瘍性大腸炎	抗炎症作用を有する薬の注腸治療

## 「食べる機能の回復」



歯科口腔外科  
医師 梅本 丈二

### (食べる機能の回復)

口の機能はいったん失われると、体の一部といえども、影響は多方面に波及し、食事・会話など日常生活における機能に大きな影響が生じます。歯科口腔外科では、食べる機能の回復を図ることが最も重要な仕事のひとつです。歯や顎の欠損に対しては補綴装置という人工物を用いて機能回復をはかります。

### (補綴装置の種類)

一般的なものとして、次のものが挙げられます(図1)。

- 1) クラウン：う蝕を除去した後の歯の修復に用いられます
  - 2) ブリッジ：歯の欠損を補います
  - 3) 部分床義歯(部分入れ歯)、全部床義歯(総入れ歯)
- しかし、ブリッジは歯が何本も欠損した場合は不可能であること、欠損した歯を補うために両側の歯まで削らないといけないこと、両側の歯に負担がかかることなどの欠点があります。また、

有床義歯(入れ歯)では咀嚼すると動いて不安定になること、味覚がわかりにくくなること、発音しづらくなること、装着感が悪いことなど多くの欠点があります。

### (インプラント治療について)

インプラントは、歯をう蝕や歯周病、外傷などで失った後、補綴装置が外れないように、骨に埋め込む人工歯根のことをいいます(図2)。天然の歯の状態により近い機能、形態の回復が得られ、強く噛む力を回復させることができます。また周囲の歯を削ったり、それらに負担をかける必要がありません。しかし、骨とインプラントが結合するまでに3~6か月かかるため長期間の治療になります。また、保険外診療となるため治療費が高額になります。

### (インプラント治療を行うための診査)

インプラント治療の成功率は健康な人の下顎で約9割、上顎で約8割と言われていますが、手術後インプラントが骨と結合しない場合や管理が不十分のため摘出することになる場合もあります。

手術前の診査では、CT検査を用いて顎骨の形、質、量を三次元的に診査します。骨の量が足りない場合は、他の部位から骨を移植して骨を増やす手術も行うことができます。また、全身の疾患があり感染に弱い患者さんや高齢の患者さんなどにはインプラント治療が可能かどうかを慎重に検討する必要があります。歯科口腔外科では院内各科と連携して、安全で確実なインプラント治療を行っています。

### (食べる機能に障害が生じる疾患)

食べる機能の障害は、単に歯や顎が欠損して起こるばかりではなく、様々な疾患が関与して起こる場合があります。食べる機能の流れは、まず食物を認識して口に取り込み、噛んで舌の上に食物のだんごを作ります。飲み込みやすくなった食物のだんごは、のどから食道、胃へと送り込まれます。食べる機能の障害には大きく2つの原因があります。一つは悪性腫瘍の手術を受けた患者さんのように、口、のど及び食道などの食物の通路に異常がある場合です。もう一つは、脳卒中やパーキンソン病のように食物の通路には問題はないが、食物を運ぶメカニズムが障害され、うまく食物が運ばなくなる場合です(表1)。

### (食べて飲み込む機能の評価)

歯科口腔外科では主に、食物を口に取り込み、噛んで舌の上に飲み込みやすい食物のだんごを作るまでの機能を評価して、障害へ対処しています。食物を口に取り込んで、食物を噛み切り、すりつぶし、食物のだんごを作り、飲み込むまでの様々な機能は、お互いに影響し合っています。そのため、食べる機能を評価するためには、顎や咬む筋肉の動き、咬み合わせの状態、咬む力、咬める食品などを総合的に評価する必要があります。さらに、脳卒中やパーキンソン病などの患者さんにはバリウムを含んだゼリーを食べて飲み込んでもらいX線で透視する検査を行って、食べて飲み込む機能を評価しています。

### (より良い食生活への支援)

食べて飲み込む機能を評価した後は、歯や顎の欠損があれば補綴装置を用いて機能回復をはかります。脳卒中やパーキンソン病などのように食物を口から食道へ運ぶメカニズムが障害された患者さんにはリハビリテーション部と協力して、食べて飲み込む機能のリハビリテーションや食事内容の調整を行います。福岡大学病院では口から食べられる入院患者さんに、常食、軟飯軟菜食、粥食、嚥下障害食(ミキサー食)及び流動食などを用意していますので、患者さんにとって最も食べやすく、安全な食事内容となるように院内各科の先生と情報交換をしています。また、退院したり病院を移った後も、より良い食生活が送れるように支援しています。

### (最後に)

食べる機能について御相談がありましたら、お気軽に歯科口腔外科を受診して下さい。補綴装置や咬み合わせから食物を運ぶメカニズムの障害まで、食べる機能でお困りの患者さんの診療を積極的に行っています。初診の受け付けは、月・水・金の11時までとなっています。

表1 食べる機能に障害が出る原因

食べる機能の障害	形態の異常	口、のど、食道などの食物の通路の異常 顎の形の異常、咬み合わせの異常、悪性腫瘍手術後の形態の欠損など
	神経や筋肉に障害が出る疾患	食物を口から食道に運ぶメカニズムの異常 脳性麻痺、精神発達遅滞、脳卒中、認知症、パーキンソン病、筋ジストロフィーなど
	その他	老化現象、投薬の問題など

図1 補綴装置の種類

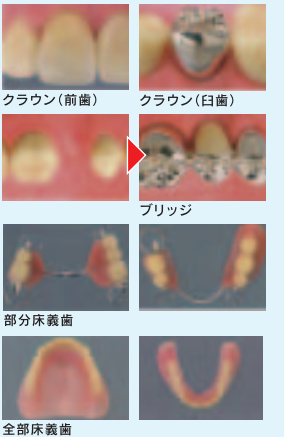


図2 インプラント

